

発言文字化、本番は「80%」

北区議会 目立った誤変換

声登録など精度向上図る

北区議会の本会議が26日あり、聴覚障害者の齊藤里恵区議(31)のために導入された、議場での音声を自動で文字化するシステムが初めて使われた。文字化の精度はテスト時より落ち、「80%」(齊藤区議)。区議会事務局は、単語登録を増やすなど「対応を急ぐ」としている。

「区長」が「苦勞」に誤変換されたり、新議長の山田加奈子氏の名前が「山ちやがっこう」となったり。齊藤区議は、文字化システムのIT端末について「テスト時より長文が多いためか、誤変換が目立った。隣の議員に助けってもらい理解できた」と振り返った。区議会事務局は前日のテ

ストの際、変換精度を「90%以上」としていたが、本番に臨んだ齊藤区議は「80%程度だった」とした。齊藤さんの隣の席に座ったのは、維新の吉岡慶太区議(48)。「齊藤さんはかなり困っていた」。齊藤区議が机の上に立てていた端末を時々見て、ひどい誤変換があると筆談で正しい文字を教えた。単語だけでなく「意味が全然わからない文章もあった」という。システム上の課題も見えた。IT端末は、1行30字



本会議に臨んだ齊藤里恵区議。音声文字化システムについて「誤変換も多少見られました。が、理解することはできました」とほっとした様子を見せた

で最大8行が表示される設定だが、8行分以上の発言があった時点から、古い発言の行が次々と消える。「音声を再び聞けないほか

の区議との公平性を考慮する」(区議会事務局)として、消えた行の文字は復活できない設定になっており、今回の変換精度などの検証はできないという。区議会事務局の田名辺要策次長は「事前テストと違い、今日は精度が落ちていた」と認めた。システムを開発した業者側と改善策を協議するという。誤変換を防ぐため、すでに区内の地名など300語

を単語登録しているが、今後さらに増やす方針。また、発言者の声を登録することで精度が上がるといい、田名辺次長は「区議40人、区長や区幹部ら、人数は多いが、対応できるか業者に聞く」としている。この日の区議会は、4月の区議選を受けて新しい議長を決める臨時会のため、一日限りで閉会。齊藤区議らの発言はなかった。(別宮潤一)

バックプレー昭和

裕次郎・ひばり・百恵・ビートルズ…

石原裕次郎や山口百恵、ビートルズなど懐かしいレコードジャケット約450枚を展示する「『昭和』レコードで振り返って」が調布市文化会館たづくり(小島町2丁目)で開かれている。来場者のリクエストに応じてレコードをかけるコーナーが好評だ。

も聴試でクエストリクエスト

毎日正午と午後2時には試聴コーナーが催され、訪れた人が用意された100枚のうちから好みのレコードを選んでかけてもらうことができる。調布FMの牧野道徳プロデューサー(35)は「レコードは見えないのあるジャケットのデザインや、あったかくて深い特有の音がある。ぜひ見たり聴いたりしてほしい」と話す。展示は31日までの午前10時から午後6時まで。無料。

北区 500 日、現 男の画 40代

長 受

結 津